

仲間と訪ねる都内の平和博物館

昨年の平和特集号では、「平和マップ」を使って多摩地域の3自治体の戦争遺跡を紹介しました。今年は文京・新宿・江東の都区部3自治体を取り上げ、3支部の仲間とともに、平和の尊厳や戦争の悲惨さを後世に伝える平和関連の博物館を訪ねてみました。

2人の子に聞かせる

わたつみのこえ記念館

7月29日、文京支部の原妙子さんと、本郷三丁目駅から徒歩7分のところにある「わたつみのこえ記念館」を訪ねました。

すぐ近くに住んでいるという原さんは、記念館の存在は看板を見て知っていたものの、中に入るのは初めてのこと。出迎えていただいた館長の山辺昌彦さんに2階の展示室で説明を受けました。「わた



戦没学生の遺影と記念像の横に立つ原さん

本物の衝撃が伝わる 第五福竜丸展示館



「本物だから伝える気持ちがわかる」と船体を指さす天沼さん

1954年3月1日、米国のマーシャル諸島ビキニ環礁で水爆実験を行ない、多数の日本の漁船が被曝。なかでも第



山辺館長(左)が展示品について説明してくれました

の他、彼らが家族に宛てた手紙、戦地に行く前に書いた日記や軍隊の中で書いた日誌等アジア・太平洋戦争における日本の戦没学生を中心とし



される関係でありのままでないところが悲しい。今は自由に書きたいこと書けますからね」と原さん。帰ったら小学生のお子さん2人に話して聞かせると話してくれました。

「同じ女性として心痛む」 女たちの戦争と平和資料館



展示を食い入るように見つめる本木さん

西早稲田2丁目、早稲田通りをちょっと入った場所にあるAVACOビルの2階に、



た資料館です。日本軍性奴隷制の責任者のパネルやアジア全域の慰安所が一目でわかる「慰安所マップ」の常設展示、関連する書籍、雑誌、映像などを見ることのできる資料閲覧コーナーが常設されています。また、

休館日/月・火・祝日・年末年始
入館料/18歳以上1500円、18歳未満300円、小学生以下無料

けになりました。この第五福竜丸を展示しているのが、江東区夢の島公園内にある都立第五福竜丸展示館です。

7月21日、地元江東支部の天沼昭博さんと一緒に展示館を訪れました。



汚染被害などのパネル解説が並んでいます。また展示館前広場には、「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」という言葉が

刻まれている久保山愛吉記念碑、乗組員の大石又七さんらの呼びかけで建立したマクロ塚、他の船に転用されていた第五福竜丸のエンジンが展示されています。

休館日/月(祝日の場合は開館し火曜日休)
入館料/無料

①183人の朝鮮人慰安婦の声、②日本の朝鮮侵略・植民地支配と日本軍「慰安婦」制度、③朝鮮の女性たちの闘いがパネルなどで展示されています。

朝鮮人「慰安婦」の声を一つ一つ読み、展示を食い入るように見つめていた本木さんは「以前、新宿区内の別の施設で慰安婦問題の展示を見たことがあります、今日は衝撃的でした。だまされて連れて行かれた女性がろくな食事も与えられず、着替えもできなかったなどと証言も読んで辛かった。戦後、慰安婦の過去を隠して生きていかねばならなかったということにも同じ女性として心が痛みました」と話していました。